

会 議 録

会議の名称	第 2 回佐渡市地産地消推進会議
開催日時	令和 6 年 10 月 25 日（金）14 時～15 時 30 分
場所	金井コミュニティセンター大会議室（Zoom 併用）
次 第	1. あいさつ 2. 座長の選任 3. 佐渡市地産地消推進条例及び推進会議開催要綱について (1)佐渡市地産地消推進条例 (2)佐渡市地産地消推進会議開催要綱 4. 第 3 次佐渡市地産地消推進計画について (1)第 3 次計画の概要 (2)第 3 次計画の評価検証 5. 第 4 次佐渡市地産地消推進計画について (1)第 4 次推進計画の策定に向けて 6. その他
会議の公開・非公開 （非公開とした場合は、その理由）	公開
出席者	21 名（事務局含む）
会議資料	資料No. 1 佐渡市地産地消推進条例 資料No. 2 佐渡市地産地消推進会議開催要綱 資料No. 3 佐渡市地産地消推進会議参加者名簿（※非公開） 資料No. 4 第 3 次計画の概要 資料No. 5 第 3 次計画の評価検証 資料No. 6 第 4 次推進計画の策定に向けて 資料No. 7 第 4 次推進計画（素案）
傍聴人の数	1 名
備考	資料No. 3 は、発言の内容によっては個人が特定される恐れがあるため非公開とする。

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
1. あいさつ	
農業政策課 松本係長	○座長が選任されるまでの間、事務局で進行することを説明。
農業政策課 中村課長	○新型コロナウイルス感染症や世界遺産登録など情勢の変化がある。そういったことも踏まえ、社会情勢に沿うよう地産地消計画もバージョンアップしていく必要がある。 ○今までの地産地消計画は、「地産地消」の概念を知っていただくことに主幹が置かれている。昨今、それだけは地産地消率は上がらないことがわかった。地産地消率が上がらない原因としては、佐渡産がないことが課題ではなく、問題であり、問題に対し課題を設定し、どう解決していくかが必要である。課題を設定した上で進捗管理を行い、地産地消率を上げる必要がある。 ○市内のマーケットは限られている。市内だけでは儲けにはつながらないため、地域外へ売っていただける体制の強化も必要。
農業政策課 松本係長	○参加者自己紹介を依頼。
≪参加者自己紹介≫	
2. 座長の選任	
農業政策課 松本係長	○座長の選任について説明。 立候補・推薦がなかったため、事務局案を提案し、出席者より承認。
3. 佐渡市地産地消推進条例及び推進会議開催要綱について	
座長	○次第3について、事務局からの説明を求める。
農業政策課 松本係長	○資料No.1「佐渡市地産地消推進条例」、資料No.2「佐渡市地産地消推進会議開催要綱」、資料3「佐渡市地産地消推進会議参加者名簿」により説明。
座長	○事務局の説明について、意見・質問を求める。
≪意見・質問なし≫	
4. 第3次佐渡市地産地消推進計画について	
座長	○次第4について、事務局からの説明を求める。
農業政策課 松本係長	○資料No.4「第3次計画の概要」、資料No.5「第3次計画の評価検証」により説明
座長	○事務局の説明について、意見・質問を求める。

A 氏	○実績で空欄になっている箇所は、具体的な内容ではないため空欄になっているとのことだが調査はしているのか。
農業政策課 松本係長	○調査中である。関係機関などに確認しながら空欄を埋めていく予定。
A 氏	○表の色分けには意味があるのか。
農業政策課 松本係長	○現状値の出典を確認しているものなどがピンクの箇所である。
農業政策課 中村課長	○KPI の設定の仕方、事業を実施した結果を踏まえ、この後はしっかりとした目標を設定したい。実施した事業について情報共有しながら進めていきたい。
座長	○第3次計画のなかで取り組みが前進した点、進まなかった点などをあげていただくと、次の計画策定につながる。
農業政策課 松本係長	○第1回推進会議を庁内職員のみで行った。各課の取り組み状況を確認したなかで前進したものは、ヤマト運輸と連携して実施した野菜を保育園へ届ける配送があげられる。
農業政策課 中村課長	<p>○地産地消計画指標に佐渡産野菜の使用率があり、保育園で例をあげると、第1次計画の結果は14.9%であったが、第2次の結果は11.1%と下がった。この問題点を分析したところ、保育園が各所にあり、量が少ないため割に合わず、なかなか配送に結びつかないことであった。しかし、ヤマト運輸は市内全域に配送の仕組みがあり、荷物が無くてもあっても島内を巡回している。お金を出しても物が届く体制はあるので、一部の保育園でよらんか舎とヤマト運輸が連携して配送する仕組みの実証を行った。</p> <p>○その結果、令和5年度は全体で10.6%に下がる結果となった。しかし、ヤマト運輸の配送ができた保育園は、両津東保育園14%から25.8%に上昇、両津吉井保育園は生産者の努力もあり、2.6%から15.5%に上昇。一方で規模の大きい保育園は5.5%から4.3%に下がる。これが意味するものは、しっかりマッチングすることで使用率は上がるということである。規模の大きい保育園の使用率をあげないことには、全体の地産地消率はあがらないが、規格をそろえ、量を確保することができない。よって我々の行うべきことは生産量の拡大である。</p> <p>○流通の課題は、水産、林業も同様である。流通の仕組みを整えた上で、生産者には栽培に集中してもらいたい。</p> <p>○今の保育園の仕組みは、よらんか舎を核にしている。そのメリットは精算をすべてやってもらえること。早くこの仕組みを全域に活用できる仕組みにしたい。</p>
農業政策課 松本係長	○その他、取り組んだ実績としては、子ども若者課とタイアップした食育事業がある。
子ども若者課	○市内の保育園で年1回食育教育を開催している。対象は年長とその保護者。

小野主任栄養士	<p>毎年テーマを決め、昨年度は「野菜」を使った親子クッキングを実施。その際には生産者参加型にて実施した。</p> <p>○一昨年のテーマは「お米」であった。実際、園児が洗米し、お米を炊き、おにぎりを作って食べることを実施。</p> <p>○今年も10月から実施している。ここ数年、白いご飯を好まない園児が増えており、自宅からご飯を持ってきてもらうが、年齢に合わせた目安量を下回る結果である。白米だけでは食べない子どもが増えてきているなかで、原点に立ち返り今年のテーマは「お米」とした。地区の生産者に参加してもらい、米栽培についての紙芝居など、子どもに伝える工夫をしている。</p>
農業政策課 松本係長	○その他、食育としては無農薬無化学肥料のお米を市内小中学校に1か月間提供している。
座長	○その他、行政だけではなく取り組んだ実績などあれば報告をお願いしたい。
農林水産振興課 小熊主事	<p>○給食で佐渡産水産物を使用した際に補助を行っている。また、振興局においてお魚捌き教室などを開催し地産地消の推進を図った。</p> <p>○佐渡産水産物利用率はほぼ達成といえる。</p>
座長	○次に林業はどうか。
農林水産振興課 栗山主任	○木材の流通を推進したいが、担い手確保が難しい。
G 氏	<p>○補足すると、住宅着工戸数が圧倒的に少ない。なかなか木材は地産地消を進めづらい。</p> <p>○今の主流はプレカットであるが、島内にはプレカット業者がない。それに対抗するには高いハードルである。</p>
5. 第4次佐渡市地産地消推進計画について	
座長	○次第5について、事務局からの説明を求める。
農業政策課 松本係長	○資料No.6「第4次計画の策定に向けて」、資料No.7「第4次推進計画（素案）」により説明。
座長	○事務局の説明について、意見・質問を求める。
A 氏	○資料No.7第2章に第3次計画検証の記載があるが、KPIの実績や市の反省や結果、検証だけではなく、実際に携わっている生産者や関係機関の声を取り入れないと、第4次の発展につながらないのではないかと。
農業政策課 松本係長	○当該会議参加者に第3次計画期間の5か年がどうであったかの調査を実施する予定。その意見等を第2章に反映させたい。
農業政策課 中村課長	○民間の声は必要である。地域産業振興課において、サドメシランの認定店舗に対してアンケート調査を実施している。その中で、佐渡産が手に入りづらいなど様々な課題や問題点が指摘されている。そういった結果も検証していきたい

	<p>い。</p> <p>○また、地域産業振興課と野菜など島外産になっている時期を把握し、佐渡産に置き換えたいと話している。この点については、生産する時期や方法について具体的に話を詰めていく必要がある。</p>
A 氏	<p>○検証の部分で時間が足りないのではないか。スケジュールがタイトである。国の方向性も変わってきているなかで、第3次と第4次で内容が大きく変わると思うがこのスケジュールで大丈夫か。</p>
農業政策課 松本係長	<p>○ご指摘のとおりタイトなスケジュールである。第3次と第4次の内容は国の方向性はもちろん、市においても有機栽培を重点施策として推進していることもあり、そういった点も勘案しながら第4次を策定したい。</p>
A 氏	<p>○職員の負担が大きいのではないか。</p>
農業政策課 中村課長	<p>○今年度中の策定を目標にしているが、新しい考え方も入ってきているなかで状況を見ながらになる。</p> <p>○佐渡市の食育推進計画が次年度で計画期間満了となる。当該地産地消推進と1年のずれがある。食育推進計画との整合性を図っていく必要があるため、計画を延長し整合性を図った計画にすることも可能であるが、地産地消推進計画の内容については今年度中には詰めたい。その上で、最上位計画である総合計画なども勘案した上でどうしていくのか判断していきたい。</p>
A 氏	<p>○今年度中に策定し、食育推進計画の策定に合わせて次年度に見直しすることは可能か。</p>
農業政策課 中村課長	<p>○可能である。</p>
座長	<p>○今年度中に一定の完成を目指して進めていくが、会議回数があと2回で完成させるのか。</p>
農業政策課 松本係長	<p>○みなさまに集まっていただくのはあと2回を想定している。それ以外では、メール等にて書面でのやり取りをお願いする予定。</p>
座長	<p>○策定の進め方について、その他意見を求める。</p>
A 氏	<p>○第3回会議の段階では、ほぼ骨格が出来上がった計画となるのか。</p>
農業政策課 松本係長	<p>○お見込みのとおり。</p>
A 氏	<p>○12月以降に、出来上がった計画についてブラッシュアップを行い、パブコメを実施し、その意見を踏まえた上で第4回会議に臨み、議会に報告するのか。</p>
農業政策課 松本係長	<p>○お見込みのとおり。</p>
座長	<p>○第4次計画についてその他、意見・質問を求める。</p>

D 氏	<p>○第3次の振り返りや検証を行っていると思うが、第3次計画の期間中で中間や年次ごとで推進会議を開催して検証や見直しを行っているのか。</p> <p>○第4次では、5年間の検証だけではなく、中間や年次ごとに検証や見直しを行うのか。</p>
農業政策課 松本係長	<p>○第3次については、コロナ禍であったこともあり推進会議は開催されていない。途中で計画を見直す、実績の進捗を確認していることはない。</p> <p>○第4次計画では、5年間の間で年次ごとに会議を2回程度開催したいと考えている。計画内容の見直しだけではなく、意見交換の場としたいと思っている。</p>
座長	○第4次計画についてその他、意見・質問を求める。
《意見・質問なし》	
6. その他	
座長	○参加者に全体を通じた意見・質問を求める。
《意見・質問なし》	
座長	○以上で、本日の会議を閉会する。